

令和 6 年 5 月 16 日現在

機関番号：12601

研究種目：挑戦的研究（萌芽）

研究期間：2018～2023

課題番号：18K18894

研究課題名（和文）集合住宅における子ども・女性に対する犯罪の実態分析と対策立案

研究課題名（英文）Analysis of crimes against children and women in multifamily housing

研究代表者

樋野 公宏（Hino, Kimihiro）

東京大学・大学院工学系研究科（工学部）・准教授

研究者番号：30391600

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 4,800,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、集合住宅における子ども・女性に対する犯罪について、建築および地域レベルから被害および不安感の実態を分析し、データに基づく対策を提案することを目的とする。福岡市および東京都区部における子ども・女性対象の前兆事案の研究、神奈川県集合住宅における前兆事案・性犯罪の研究、福岡県内「セキュリティアパート」居住者の意識に関する研究、小学生の通学に対する母親の不安感の研究を行った。研究成果は国内外の学術誌で査読論文として発表するとともに、研究成果を踏まえて「防犯まちづくりピクトグラム」を開発・公開した。さらに、国の「登下校防犯プラン」や東京都足立区の防犯まちづくり施策に反映した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

建築および地域レベルでの子ども・女性に対する被害および不安感の実態分析を通じて、それらの要因を明らかにし、具体的な対策を提案した。研究成果は、福岡県防犯設備士協会の「セキュリティアパート」認定制度、東京都足立区の「防犯まちづくり推進地区制度」などで活用されている。警察と研究機関がデータを共有し、両者の専門性を活かして対策を検討した点に加え、国の「登下校防犯プラン」の推進に寄与する成果を得た点にも本研究の意義がある。海外のセミナーやシンポジウムにおける研究成果の発表を通じて各国の研究者とネットワークを構築できたことは、本テーマの学術的発展につながると考えられる。

研究成果の概要（英文）：This study aims to analyze crime against children and women and their safety perceptions in multi-unit housing from an architectural and community perspective, proposing data-driven measures. Research was conducted on precursor incidents targeting children and women in Fukuoka City and the Tokyo metropolitan area, precursor and sexual offenses in multi-unit housing in Kanagawa Prefecture, residents' safety perceptions in 'security apartments' in Fukuoka Prefecture, and mothers' anxiety regarding their children's school commutes. The results were published as peer-reviewed articles in academic journals both domestically and internationally. Building on these findings, we developed and released a 'Crime Prevention Pictogram for Community Building'. Additionally, the results influenced the national plan for safe school commuting and the crime prevention community certification system in Adachi Ward, Tokyo.

研究分野：都市計画

キーワード：防犯環境設計 犯罪不安 地域防犯活動

### 1. 研究開始当初の背景

刑法犯認知件数の減少にも関わらず、子ども・女性に対する犯罪はほぼ横ばいであり、その 1/3 は集合住宅の共用部分等で発生していた(都内 2012-16 年。室内除く・非面識)。

子ども・女性に対する犯罪に対し、諸外国では警察が大学等の外部研究機関とデータを共有して、犯罪予防や捜査活動を進めてきた。一方日本では、警察と研究機関による共同研究の事例がほとんどなく、防犯対策を科学的知見に基づいて高度化・効率化する上での大きな障害となっていた。

### 2. 研究の目的

本研究は、集合住宅における子ども・女性に対する犯罪について、建築および地域レベルから被害および不安感の実態を分析し、データに基づく対策を提案することを目的とする。

実態分析は、自然監視性や領域性など防犯環境設計の視点に基づく建築レベル、土地利用や街路特性など地域レベルの二段階で行う。分析結果を踏まえ、子ども・女性が被害に遭いにくく安心して暮らせる集合住宅の設計と、地域防犯活動の提案を本研究の成果とする。

### 3. 研究の方法

本研究では、警察が保有する犯罪関連データやアンケート調査による市民意識データを用いて、建築・地域の各レベルで犯罪および犯罪不安の要因を探る。建築レベルでは、自然監視性や領域性の要素から成る防犯環境設計の視点から、犯罪被害および不安の要因を分析する。地域レベルでは、GIS を用いて算出する地域の土地利用、街路特性等と被害発生リスクとの関係を分析する。研究代表者と研究分担者が関与する「福岡県警察犯罪予防研究アドバイザー制度」の枠組みにおいて研究を進める。

### 4. 研究成果

#### (1) 建築レベルでの犯罪・不安要因の分析と設計に関する提案

神奈川県を対象として、集合住宅における前兆事案・性犯罪を分析し、エントランスや階段、駐車場等の屋外空間での多発傾向を明らかにした。この分析結果を題材として大手ゼネコン二社の設計担当者と、被害に遭いにくい集合住宅の設計について意見交換を行った。また、子ども・女性の被害防止に配慮した賃貸住宅の設計について、大手ハウスメーカーと 6 回の研究会を実施した。

また、福岡県警の協力を得て、福岡県防犯設備士協会が認定する「セキュリティアパート」の居住者および一般賃貸住宅居住者へのアンケート調査を実施した。認定物件居住者には住戸内で犯罪被害不安を感じる者が 14%と少なく(一般賃貸は 27%)、再び認定物件に住みたいという者が 82%と多かった。一般賃貸居住者の考える認定価値と相関が高い防犯対策は敷地内照明、緊急警報装置であった【図 1】。分析結果は『日本建築学会計画系論文集』に掲載された。分析結果を踏まえて認定基準に関する提言を行うとともに、福岡県主催の「安全・安心まちづくり県民の集い」(2022 年 10 月)で発表した。

#### (2) 地域レベルでの犯罪・不安要因の分析

子ども・女性対象の前兆事案について、福岡市および東京都区部を対象に分析した。福岡市での分析結果は福岡県警察犯罪予防研究アドバイザー報告会(2018 年 11 月)にて発表した【図 2】。東京都区部については、街路ネットワーク構造の指標である Betweenness (経路としての選択されやすさ)および Straightness (見通しの良さ)が前兆事案の発生と有意に関係すること

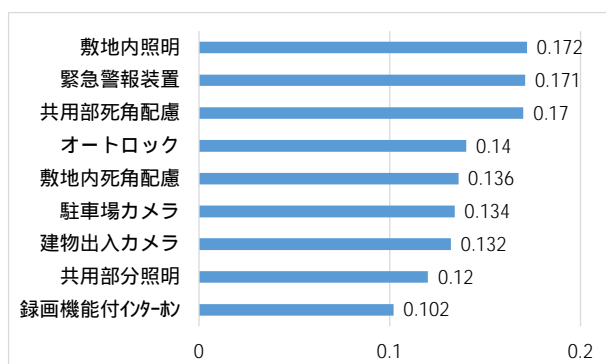


図 1 各防犯対策と認定価値との Spearman の順位相関係数

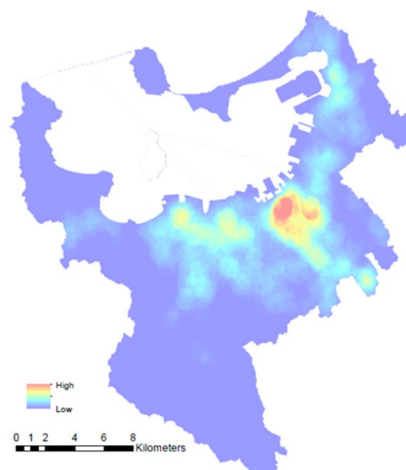


図 2 前兆事案の発生地点分布密度

を明らかにし、地理情報システム学会『GIS理論と応用』で発表した。

また、公園における子ども・女性に対する脅威事案の分析では、発生形態、発生時刻および月が、公園と他の公共空間で異なること、特に住宅地において公園の接道性が高いと発生確率が高くなることを明らかにし、日本都市計画学会『都市計画論文集』で発表した。

さらに、CGによるモンタージュ写真を用いて、小学生の母親の不安感と通学路の沿道環境との関係进行分析し、窓に貼られたサイン、商業用途の建築、民地内のテーブル・チェアが、子どもを狙った身体的犯罪への不安感を和らげることを示した【図3】。この分析結果は、国際誌『Journal of Asian Architecture and Building Engineering』に掲載された。



図3 CGによる通学路のモンタージュ写真  
(左手に“民地内のテーブル・チェア”)

### (3) 防犯活動の評価、支援ツール開発

2018年6月に公表された「登下校防犯プラン」(登下校時の子供の安全確保に関する閣僚会議決定)では、研究代表者らの助言により「ながら見守り」(ウォーキング、買物、花の水やり等の日常活動を行う際、防犯の視点を持って行う見守り)の推進が明記された。この「ながら見守り」について、活動者の移動軌跡と市民の犯罪不安箇所との地理的対応関係进行评估し、改善策を提案した(日本都市計画学会『都市計画論文集』掲載)。

また、岡崎市民の意識調査から、従来型の防犯活動への参加意向を持つ割合が30%だったのに対し、「ながら見守り」では96%に達し、活動のタイプによって様々な属性の市民が参加する可能性を示した(『日本建築学会計画系論文集』掲載)。

さらに、上記の研究結果や既存研究を踏まえて「防犯まちづくりピクトグラム」【図4】を開発し、研究代表者のホームページで公開するとともに、日本都市計画学会誌で紹介した。これは、既存の防犯活動を振り返り、新たな活動を計画する地域組織等を支援するためのもので、東京都区立区の「防犯まちづくり推進地区制度」などで活用され始めた。

### (4) 今後の研究課題

本研究では、警察とともに被害物件を現地調査し、防犯環境設計の視点から侵入経路、侵入手段、防犯設備の有無等と被害との関係进行分析する予定だったが、コロナ禍により実施できなかった(1年延期の後、警察が中止を決定した)。そうしたマイクロな調査・分析と、本研究で実施した犯罪・不安要因の分析との統合により、より根拠に根ざした対策の提案が求められる。

最終年度には、英国・マンチェスターにおいて、子ども・女性の安全・安心を主眼とする治安対策事業(Safer Street)に関する調査、豪州・シドニーにおいて、公共空間改善に女性の視点を取り入れるSafer Cities Programに関する調査を行い、調査結果を日本都市計画学会誌で発表した。海外の研究者との共同調査およびネットワーク構築は、将来の国際共同研究につながるものである。子ども・女性の安全・安心に向けた国内外事例の国際比較と応用可能性の検討は今後の研究課題と言える。



図4 防犯まちづくりピクトグラム

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計30件（うち査読付論文 15件 / うち国際共著 3件 / うちオープンアクセス 14件）

1. 著者名 HINO Kimihiro, AMEMIYA Mamoru, TANAKA Yasushi	4. 巻 88
2. 論文標題 RESIDENTS' ATTITUDES TOWARD CRIME-PROOF LOW-RISE RENTAL APARTMENTS	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Journal of Architecture and Planning (Transactions of AIJ)	6. 最初と最後の頁 1366 ~ 1370
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3130/aija.88.1366	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -
1. 著者名 Hino Kimihiro	4. 巻 128
2. 論文標題 Changes in public attitudes toward CCTV installations in residential areas between 2008 and 2019	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Cities	6. 最初と最後の頁 103810 ~ 103810
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.cities.2022.103810	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -
1. 著者名 Hachisu Kosuke, Amemiya Mamoru, Hino Kimihiro	4. 巻 57
2. 論文標題 The Actual Situation of Threat Incidents against Children and Women in Parks and Their Relation to Road Connectivity	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Journal of the City Planning Institute of Japan	6. 最初と最後の頁 1447 ~ 1452
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.11361/journalcpj.57.1447	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -
1. 著者名 Hino Kimihiro, Chronopoulos Themis	4. 巻 23
2. 論文標題 A review of crime prevention activities in a Japanese local government area since 2008: Beautiful Windows Movement in Adachi Ward	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Crime Prevention and Community Safety	6. 最初と最後の頁 341 ~ 357
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1057/s41300-021-00118-w	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 TAKASE Daiju, NAMBU Sekio, HINO Kimihiro, TANAKA Yasushi	4. 巻 87
2. 論文標題 ESTIMATING ANXIETY CAUSED BY FEAR OF NIGHTTIME CRIME FROM PHYSICAL ENVIRONMENTAL CHARACTERISTICS	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Journal of Architecture and Planning (Transactions of AIJ)	6. 最初と最後の頁 329 ~ 336
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3130/aija.87.329	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 樋野公宏	4. 巻 528
2. 論文標題 地域社会と連携した大型店の防犯対策 防犯性に優れた大規模商業施設のガイドライン」より	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 建築防災	6. 最初と最後の頁 9-14
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 樋野公宏・雨宮護・讃井知・Matthew Callender・Iain Britton・Laura Knight	4. 巻 19
2. 論文標題 英国の警察関連ボランティアに関する調査報告	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 都市計画報告集	6. 最初と最後の頁 299-302
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 樋野公宏・樋野綾美	4. 巻 18
2. 論文標題 公共空間に設置される防犯カメラに対する意識の変化 2008 年の調査結果との比較から	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 都市計画報告集	6. 最初と最後の頁 1-2
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 西颯人・樋野公宏	4. 巻 na
2. 論文標題 犯罪・交通事故の発生件数データを対象とした時系列解析モデルと分析ツールの開発	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 2019年日本オペレーションズ・リサーチ学会秋季研究発表会アブストラクト集	6. 最初と最後の頁 38-39
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 田中賢・高瀬大樹・村田明子・樋野公宏	4. 巻 na
2. 論文標題 大学キャンパスにおける犯罪不安と対策に関する調査概要 女子学生を対象とした大学キャンパスの防犯に関する調査報告 (その1)	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 日本建築学会大会学術講演梗概集	6. 最初と最後の頁 na
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高瀬大樹・村田明子・樋野公宏・田中賢	4. 巻 na
2. 論文標題 防犯カメラの高機能化に関する態度 女子学生を対象とした大学キャンパスの防犯に関する調査報告 (その2)	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 日本建築学会大会学術講演梗概集	6. 最初と最後の頁 na
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 加藤知弥・寺木彰浩・樋野公宏	4. 巻 na
2. 論文標題 防犯まちづくりにおける住民の評価に関する研究	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 日本建築学会大会学術講演梗概集	6. 最初と最後の頁 na
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -



1. 著者名 高橋あい・雨宮護	4. 巻 28巻1号
2. 論文標題 子供・女性を対象とする脅威事案における近接反復被害仮説の検証	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 GIS理論と応用	6. 最初と最後の頁 21-30
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Hino Kimihiro, Amemiya Mamoru	4. 巻 90
2. 論文標題 Spatiotemporal analysis of burglary in multifamily housing in Fukuoka City, Japan	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Cities	6. 最初と最後の頁 15 ~ 23
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.cities.2019.01.030	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Hino Kimihiro, Tanaka Yasushi, Schneider Richard H.	4. 巻 17
2. 論文標題 Characteristics of fear of crime in evacuation shelters after the Great East Japan Earthquake	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Environmental Hazards	6. 最初と最後の頁 456 ~ 469
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1080/17477891.2018.1461605	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Hino Kimihiro	4. 巻 54
2. 論文標題 Plus Bouhan: A new community-based approach to crime prevention in Japan	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 International Journal of Law, Crime and Justice	6. 最初と最後の頁 79 ~ 88
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.ijlcrj.2018.03.008	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 上杉昌也・樋野公宏	4. 巻 91(3)
2. 論文標題 街区および近隣スケールにおける犯罪発生環境要因 - 東京都杉並区の空き巣を対象としたマルチレベル分析 -	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 地理学評論	6. 最初と最後の頁 1-18
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山村俊貴・樋野公宏・上杉昌也・雨宮 護	4. 巻 27(1)
2. 論文標題 東京都区部における性犯罪の前兆事案と街路ネットワークの関係 - Urban Network Analysis 指標に着目して -	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 GIS-理論と応用	6. 最初と最後の頁 33-42
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 村中大輝・雨宮護・樋野公宏	4. 巻 53-3
2. 論文標題 地方自治体による監視性の確保を目的とした防犯施策の計測と評価 -つくば市中心部における事例研究-	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 日本都市計画学会学術研究論文集	6. 最初と最後の頁 1537-1543
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 雨宮護・島田貴仁・中谷友樹・樋野公宏・高橋あい	4. 巻 17
2. 論文標題 子供・女性に対する脅威事案は性犯罪等のリスクを高めるか？ 子供・女性の性犯罪等における先行指標の検討	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 都市計画報告集	6. 最初と最後の頁 216-222
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -



1. 著者名 Ohyama Tomoya, Ameniya Mamoru	4. 巻 24
2. 論文標題 Applying Crime Prediction Techniques to Japan: A Comparison Between Risk Terrain Modeling and Other Methods	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 European Journal on Criminal Policy and Research	6. 最初と最後の頁 469 ~ 487
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s10610-018-9378-1	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高橋 あい; 雨宮 護; 島田 貴仁	4. 巻 27
2. 論文標題 子供・女性を対象とした脅威事案に関する時空間分析：時間帯と地域特性を考慮した近接反復被害仮説の検証	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 地理情報システム学会講演論文集	6. 最初と最後の頁 34
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 高橋 あい、雨宮 護、島田 貴仁	4. 巻 6
2. 論文標題 女性・子供を対象とした脅威事案に関する近接反復被害仮説の検証	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 環境心理学研究	6. 最初と最後の頁 31 ~
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.20703/jenvpsy.6.1_31	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 HINO Kimihiro	4. 巻 88
2. 論文標題 防犯活動参加意思の規定要因と支援策	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Journal of Architecture and Planning (Transactions of AIJ)	6. 最初と最後の頁 2551 ~ 2556
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3130/aija.88.2551	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 樋野公宏	4. 巻 69(11)
2. 論文標題 通学路の安全 犯罪から子供を守る地域の目	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 住宅	6. 最初と最後の頁 18-24
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 樋野公宏	4. 巻 187
2. 論文標題 住宅地の防犯	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 ベース設計資料	6. 最初と最後の頁 42-46
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Huang Yilin, Hino Kimihiro, Asami Yasushi, Usui Hiroyuki, Nakajima Miku	4. 巻 23
2. 論文標題 Fear of street crime among Japanese mothers with elementary school children: A questionnaire survey using street montage photographs	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Journal of Asian Architecture and Building Engineering	6. 最初と最後の頁 443 ~ 452
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1080/13467581.2023.2228931	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 齊藤知範・樋野公宏	4. 巻 366
2. 論文標題 都市の安全性とジェンダー	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 都市計画	6. 最初と最後の頁 54-57
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 樋野公宏	4. 巻 63(2)
2. 論文標題 防犯性の高いアパートの普及に向けて	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 月刊安全な街に	6. 最初と最後の頁 18-19
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計8件 (うち招待講演 0件 / うち国際学会 1件)

1. 発表者名 Narushige Shiode, Shino Shiode, Hayato Nishi and Kimihiro Hino
2. 発表標題 Seasons of Crime in London
3. 学会等名 GIS Research UK (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 西颯人・樋野公宏
2. 発表標題 犯罪・交通事故の発生件数データを対象とした時系列解析モデルと分析ツールの開発
3. 学会等名 2019年日本オペレーションズ・リサーチ学会秋季研究発表会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 田中賢・高瀬大樹・村田明子・樋野公宏
2. 発表標題 大学キャンパスにおける犯罪不安と対策に関する調査概要 女子学生を対象とした大学キャンパスの防犯に関する調査報告 (その1)
3. 学会等名 日本建築学会大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 高瀬大樹・村田明子・樋野公宏・田中賢
2. 発表標題 防犯カメラの高機能化に関する態度 女子学生を対象とした大学キャンパスの防犯に関する調査報告(その2)
3. 学会等名 日本建築学会大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 加藤知弥・寺木彰浩・樋野公宏
2. 発表標題 防犯まちづくりにおける住民の評価に関する研究
3. 学会等名 日本建築学会大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 村中大輝・雨宮護・樋野公宏
2. 発表標題 地方自治体による監視性の確保を目的とした防犯施策の計測と評価 -つくば市中心部における事例研究-
3. 学会等名 日本都市計画学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 高橋あい・雨宮護・島田貴仁
2. 発表標題 子供・女性を対象とした脅威事案に関する時空間分析：時間帯と地域特性を考慮した近接反復被害仮説の検証
3. 学会等名 地理情報システム学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 田中賢
2. 発表標題 東京都で発生したコンビニ強盗に関する基礎的研究
3. 学会等名 (一社)日本福祉のまちづくり学会
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

防犯まちづくりピクトグラム <a href="https://sites.google.com/site/kimihirohino/home/book">https://sites.google.com/site/kimihirohino/home/book</a> 日英における警察ボランティアの比較研究 <a href="http://ua.t.u-tokyo.ac.jp/hino/esrc-ahrc.html">http://ua.t.u-tokyo.ac.jp/hino/esrc-ahrc.html</a>
--

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	田中 賢  (Tanaka Yasushi)  (00387747)	日本大学・理工学部・教授   (32665)	
研究分担者	雨宮 護  (Amemiya Mamoru)  (60601383)	筑波大学・システム情報系・准教授   (12102)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関			
英国	King ' s College London	Birkbeck, University of London		
英国	University of Northampton			